

vRealize Automation 6.2 から 7.1 への移行

vRealize Automation 7.1

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサポートします。このドキュメントの最新版をチェックするには、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参照してください。

JA-002195-02

vmware®

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見および感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2016 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。著作権および商標情報。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴァイエルウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

更新情報 5

1 vRealize Automation 環境の移行 7

移行の前提条件 7

Linux でテナントおよび ID ストアを移行するための準備 8

Windows でテナントおよび ID ストアを移行するための準備 9

IaaS データベース バックアップを使用した vRealize Automation 環境の移行 9

自動 IaaS データベース クローン作成による vRealize Automation 導入環境の移行 12

内部の vRealize Orchestrator を備えた環境向けの移行後タスク 14

vRealize Automation の移行環境の検証 15

2 移行に関するトラブルシューティング 17

PostgreSQL バージョンが原因のエラー 17

インデックス 19

更新情報

この『vRealize 移行ガイド』は、製品のリリースごと、または必要に応じて更新されます。

『vRealize 移行ガイド』の更新履歴を表に示します。

リビジョン	説明
JA-002195-02	<ul style="list-style-type: none">■ 「IaaS データベース バックアップを使用した vRealize Automation 環境の移行 (P. 9)」 の手順 3a を改訂しました。■ 「自動 IaaS データベース クローン作成による vRealize Automation 導入環境の移行 (P. 12)」 の手順 1a を改訂しました。
JA-002195-01	<ul style="list-style-type: none">■ 移行に関するすべてのトピックを VMware vRealize Automation 7.1 情報センターに移動しました。■ 「Linux でテナントおよび ID ストアを移行するための準備 (P. 8)」 を改訂しました。■ 「Windows でテナントおよび ID ストアを移行するための準備 (P. 9)」 を改訂しました。■ 「IaaS データベース バックアップを使用した vRealize Automation 環境の移行 (P. 9)」 を改訂しました。■ 「自動 IaaS データベース クローン作成による vRealize Automation 導入環境の移行 (P. 12)」 を改訂しました。■ 「PostgreSQL バージョンが原因のエラー (P. 17)」 を改訂しました。
JA-002195	初期リリース。

vRealize Automation 環境の移行

移行を使用すると、既存の vRealize Automation 6.2.x 環境のサイドバイサイド アップグレードを実行できます。

移行によって、既存の vRealize Automation 6.2.x 環境から、既存環境をミラーする新しい 7.1 環境にデータが移動されます。移行では、既存の 6.2.x 環境が変更されることはありません。移行を使用して、vRealize Automation 7 または 7.0.1 環境を 7.1 にアップグレードすることはできません。既存の環境が vCloud Director、vCloud Air のいずれかに統合されている場合、または物理的なエンドポイントを有する場合は、移行を使用してアップグレードを行う必要があります。移行により、サポートされていないすべてのエンドポイントと、これらに関連付けられたすべての要素が 7.1 環境から削除されます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [移行の前提条件 \(P. 7\)](#)
- [IaaS データベース バックアップを使用した vRealize Automation 環境の移行 \(P. 9\)](#)
- [自動 IaaS データベース クローン作成による vRealize Automation 導入環境の移行 \(P. 12\)](#)
- [内部の vRealize Orchestrator を備えた環境向けの移行後タスク \(P. 14\)](#)
- [vRealize Automation の移行環境の検証 \(P. 15\)](#)

移行の前提条件

移行を実施する前に、次の前提条件を確認してください。

テナントと ID ストアを移行する場合、2 つのオプションがあります。どちらのオプションを選択するかは、vRealize Automation 管理コンソールの [移行] タブで [SSO2 移行を有効にします] を有効にするかどうかによって決まります。

- [SSO2 移行を有効にします] を選択した場合は、vRealize Automation 6.2.x テナントおよび ID ストアが自動的に Horizon に移行されます。

このオプションを選択した場合は、最初に [「Linux でテナントおよび ID ストアを移行するための準備 \(P. 8\)」](#) または [「Windows でテナントおよび ID ストアを移行するための準備 \(P. 9\)」](#) のいずれかの手順を実行してから、移行を実施する必要があります。

注意 [SSO2 移行を有効にします] オプションを選択した場合、vSphere SSO はサポートされません。vSphere SSO から移行する予定がある場合は、[SSO2 移行を有効にします] オプションを選択解除してください。

- [SSO2 移行を有効にします] が選択解除されている場合は、移行を実施する前に、インプレース アップグレードの手順を使用して手動でテナントと ID ストアを移行します。[vRealize Automation 6.2 から 7.1 へのアップグレードの「VMware Identity Manager への ID ストアの移行」](#) を参照してください。

開始する前に

- ソース 6.2.x 環境を反映したコンポーネントを含む新しいターゲット vRealize Automation 7.1 がインストールされていることを確認します。

- ターゲットシステムで稼動するエージェント（vSphere エージェントなど）に設定されたエンドポイント名が、ソースのインストール環境で使用されているエンドポイント名と同じであることを確認します。
- Hyper-V Hypervisor プロキシ エージェント、Citrix Xen Server エージェント、およびテスト エージェントについて、インストールされているエージェントの名前がソース システムとターゲット システムの両方で同じであることを確認します。
- クラスタ展開を移行するために、vRealize Automation 7.1 ターゲット環境の展開時に次の手順を実行します。
 - a マスター ノードと 1 つ以上のセカンダリ ノードを展開します。
 - b ロード バランサのマスター ノードを構成します。
 - c vRealize Automation 7.1 を分散モードでマスター ノードにインストールします。ただし、インストール時にセカンダリ ノードは追加しないでください。
- vRealize Automation 7.1 IaaS データベース用のターゲット Microsoft SQL Server のバージョンが 2012 または 2014 であることを確認します。
- ターゲット Model Manager ノードがソースおよびターゲットの Microsoft SQL Server に接続していることを確認します。
- ソースおよびターゲットの両方の vRealize Automation 仮想アプライアンスで SSH が有効になっていることを確認します。
- VMware vCloud Application Director が構成されていないことを確認します。
- ターゲット環境の各 IaaS サーバ ノードに Java SE Runtime Environment (JRE) 8 Update 91（64 ビット）以上がインストールされていることを確認します。JRE をインストールしたら、JAVA_HOME システム変数が、各 IaaS ノードにインストールされた Java バージョンをポイントしているかを確認し、必要に応じてパスを調整します。
- 各 IaaS ノードに PowerShell 3.0 以上がインストールされていることを確認します。

注意 PowerShell 3.0 は、Windows Server 2012 に統合されています。

- ソースおよびターゲットの vRealize Automation 環境が稼動していることを確認します。
- テナントを ID ストアに移行します。

Linux でテナントおよび ID ストアを移行するための準備

ソース vRealize Automation 6.2.x 環境からターゲット vRealize Automation 7.1 環境にテナントと ID ストアを移行できます。

次の手順を実行し、ソース 6.2.x SSO2 ID サーバからターゲット vRealize Automation 7.1 仮想アプライアンスに JAR ファイルをコピーします。

手順

- 1 root ユーザーとして、Linux vRealize Automation 6.2.x SSO2 ID サーバまたは 6.x vSphere Platform Services Controller アプライアンスへのセキュア シェル接続を開きます。Windows の場合は、PuTTY を使用し、接続タイプとして SSH を選択します。
- 2 コマンド プロンプトで、Copy SSO ユーティリティをターゲット vRealize Automation 7.1 仮想アプライアンスにダウンロードします。<vrva-fqdn> は、ターゲット アプライアンスの完全修飾ドメイン名に置き換えてください。


```
wget --no-check-certificate https://<vrva-fqdn>:5480/service/cafe/download/copy-sso.zip
```
- 3 コマンド プロンプトで `copy-sso.bat` を抽出します。


```
unzip copy-sso.zip -d ~/copy-sso
```


- 4 コマンド プロンプトで `copy-ssso` を実行します。

```
~/copy-ssso/bin/copy-ssso
```

root ユーザーとしてログインしているため、`sudo` を使用してこのスクリプトを実行しないでください。

- 5 プロンプトが表示されたら、要求された情報を入力します。

次に進む前に

[「自動 IaaS データベース クローン作成による vRealize Automation 導入環境の移行 \(P. 12\)」](#) または [「IaaS データベース バックアップを使用した vRealize Automation 環境の移行 \(P. 9\)」](#)

Windows でテナントおよび ID ストアを移行するための準備

ソース vRealize Automation 6.2.x 環境からターゲット vRealize Automation 7.1 環境にテナントと ID ストアを移行できます。

次の手順を実行し、ソース Windows vSphere Platform Services Controller 6.x 以降からターゲット vRealize Automation 7.1 仮想アプライアンスに JAR ファイルをコピーします。

手順

- 1 Windows vSphere Platform Services Controller 6.x 以降にログインします。
- 2 ブラウザを開き、<https://<vrva-fqdn>:5480/service/cafe/download/copy-ssso.zip> に移動して、SSO のコピーユーティリティをダウンロードします。<vrva-fqdn> は、ターゲット vRealize Automation 7.1 仮想アプライアンスの完全修飾ドメイン名に置き換えてください。
- 3 ファイルをダウンロードした後、**copy-ssso.zip** を右クリックし、[すべて抽出] を選択します。
- 4 [スタート] をクリックし、[プログラムとファイルの検索] テキスト ボックスに **cmd** と入力します。次に、cmd.exe アイコンを右クリックし、[管理者として実行] をクリックします。
- 5 コマンド プロンプトで、抽出した ZIP ファイルのフォルダにディレクトリを切り替え、次に bin ディレクトリに切り替えます。この場所から **copy-ssso.bat** を実行します。
- 6 コマンド プロンプトで **copy-ssso.bat** を実行します。

```
copy-ssso.bat
```

- 7 プロンプトが表示されたら、要求された情報を入力します。

次に進む前に

[「自動 IaaS データベース クローン作成による vRealize Automation 導入環境の移行 \(P. 12\)」](#) または [「IaaS データベース バックアップを使用した vRealize Automation 環境の移行 \(P. 9\)」](#)

IaaS データベース バックアップを使用した vRealize Automation 環境の移行

vRealize Automation 6.2.x IaaS Microsoft SQL データベースの手動バックアップを使用して、VMware vRealize™ Automation 6.2.x 環境を新しい vRealize Automation 7.1 インストール環境に移行できます。

この手順は、より高い信頼性で大量のデータを転送できるため、移行を行う場合にお勧めします。Microsoft SQL データベースの完全バックアップを作成し、このバックアップを使用して、データベースを新しい場所にリストアする必要があります。詳細については、次の Microsoft の記事を参照してください。

- [SQL Server 2014 のデータベースの完全バックアップの作成 \(SQL Server\)](#)
- [SQL Server 2012 のデータベースの完全バックアップの作成 \(SQL Server\)](#)
- [データベースを新しい場所に復元する \(SQL Server\)](#)

手順

- 1 ソース vRealize Automation 6.2.x IaaS Microsoft SQL データベースの完全なバックアップを作成します。
- 2 ターゲット vRealize Automation 7.1 環境の Microsoft SQL Server 上で、作成したバックアップを新しいデータベースとしてリストアします。
- 3 ソース vRealize Automation 6.2.x 展開から暗号化キーを取得します。
 - a アクティブな Manager サービスをホストする仮想マシンの管理コマンド プロンプトで次のコマンドを実行して暗号化キーを取得します。

```
C:\Program Files
(x86)\VMware\VCAC\Server\ConfigTool\EncryptionKeyTool\DynamicOps.Tools.EncryptionKeyTool.exe" key-read -c "C:\Program Files
(x86)\VMware\VCAC\Server\ManagerService.exe.config" -v
```

インストール ディレクトリがデフォルトの場所 (C:\Program Files (x86)\VMware\VCAC) にない場合は、パスを編集して、実際のインストール ディレクトリを指定します。
 - b コマンドの実行後に画面に表示されるキーを保存します。

キーは次の例のような長い文字列です。

```
NRH+f/BlnCB6yvasLS3sxespgdkcFWAEuyV0g4lfryg=
```
- 4 ターゲット vRealize Automation 7.1 環境で、仮想アプライアンスの完全修飾ドメイン名 `https://<va-hostname.domain.name>:5480` を使用して、仮想アプライアンスの管理コンソールを開きます。
- 5 ユーザー名 **root** と、アプライアンスを展開したときに指定したパスワードを使用してログインします。
- 6 [vRA 設定] - [移行] の順に選択します。
- 7 管理コンソールの [既存の vRA インストールから移行] ページにある [ソース IaaS データベースの自動クローン作成] チェック ボックスは、選択解除したままにします。テナントと ID ストアを移行した方法に応じて、[SSO2 移行を有効にします] チェック ボックスを選択または選択解除します。
- 8 ソース vRA SSO2 アプライアンスの必須情報を入力します。

オプション	説明
ホスト名	ソース vRealize Automation 6.2.x SSO2 ID サーバのホスト名。

- 9 ソース vRA アプライアンスの必須情報を入力します。

オプション	説明
ホスト名	vRealize Automation 6.2.x アプライアンスのホスト名
root ユーザー名	root
root パスワード	vRealize 6.2 アプライアンスを展開したときに入力した root パスワード。
パスワードの再入力	root パスワードを再入力します。

- 10 ターゲット vRA アプライアンスの必須情報を入力します

オプション	説明
デフォルトのテナント	たとえば <code>vsphere.local</code> など、インストール ウィザードでシングル サインオンを設定したときに作成したテナント。
管理者ユーザー名	たとえば <code>administrator@vsphere.local</code> など、vRealize 7.1 アプライアンスを展開したときに入力したデフォルトのテナント管理者ユーザー名。
管理者パスワード	vRealize 7.1 アプライアンスを展開したときに入力した管理者パスワード。
パスワードの再入力	管理者パスワードを再入力します。
root ユーザー名	root

オプション	説明
root パスワード	vRealize 7.1 アプライアンスを展開したときに入力した root パスワード。
パスワードの再入力	root パスワードを再入力します。

- 11 ソース vRA IaaS データベース サーバの必須情報を入力します。

オプション	説明
暗号化キー	ソース vRealize Automation 6.2.x 導入環境からの暗号化キーの文字列。

- 12 ターゲット vRA IaaS データベース サーバの必須情報を入力します。

オプション	説明
データベース ホスト名	vRealize Automation 7.1 IaaS Microsoft SQL データベース ホストの名前。
新規データベース名	ターゲット vRealize Automation 7.1 環境でリストアした Microsoft SQL データベースの名前。
パスフレーズ	移行した Microsoft SQL データベースに保存されている機密コンテンツを再暗号化するための新しいパスフレーズ。パスフレーズとは、暗号化キーを生成するために使用される一連の語のことです。これにより、エンドポイント認証情報などのデータベース内のデータを保護することができます。このパスフレーズは、新しい IaaS コンポーネントをインストールするときに使用します。
データベースのセキュリティ	SQL Server の認証メカニズム。[Windows 認証] または [SQL 認証] を選択します。[SQL 認証] を選択する場合は、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。vRealize Automation 6.2.x データベースと 7.1 データベースが別々のドメインに配置されている場合、Windows 認証は失敗します。

- 13 [移行] をクリックします。

[移行のステータス] には、移行の進行状況が表示されます。また、移行が完了するとメッセージが表示されます。

移行に関するその他の詳細は次のログ ファイルに含まれています。これらのログ ファイルを追跡すると、移行の進行状況を確認できます。

- vRealize Automation 6.2.x 仮想アプライアンス : `/var/log/vcac/migration-package.log`
- vRealize Automation 7.1 仮想アプライアンス : `/var/log/vcac/migrate.log`
- IaaS ノード : `C:\Program Files (x86)\VMware\VCAC\InstallLogs<YYYYMMDDHHMMSS>\Migrate.log`
IaaS ノードのインストール ディレクトリが、デフォルトの場所以外にある場合があります。

- 14 vRealize Automation 7.1 ライセンス キーを送信します。

- a 管理コンソールで、[ライセンス] をクリックします。
- b [新規ライセンス キー] テキスト ボックスに vRealize Automation 7.1 ライセンス キーを入力します。
- c [送信キー] をクリックします。

- 15 クラスタ環境に移行する場合は、それぞれのセカンダリ ノード上の管理コンソールにアクセスし、各セカンダリ ノードをマスター ノードに結合します。

- a [vRA 設定] - [クラスタ] の順に選択します。
- b [クラスタに参加] をクリックします。

- 16 クラスタ環境に移行する場合は、ロード バランサの各セカンダリ ノードを設定します。

次に進む前に

[\[vRealize Automation の移行環境の検証 \(P. 15\)\]](#)

自動 IaaS データベース クローン作成による vRealize Automation 導入環境の移行

自動移行プロセスを使用して vRealize Automation 6.2.x 導入環境を 7.1 に移行するには、自動 IaaS データベース クローン作成を実行します。

この手順では、ほとんどの移行プロセスが自動的に実行されますが、移行の成否は次の条件によって決まります。

- Model Manager ノードがソースおよびターゲットの Microsoft SQL Server に適切に接続している必要があります。ネットワークの帯域幅が狭いと、サーバ間で大量のデータを転送している間にタイムアウトになる場合があります。
- ソースおよびターゲットの Microsoft SQL Server が同じドメイン内に存在する必要があります。
- ターゲット Microsoft SQL Server IaaS データベースのログイン情報が、ソース Microsoft SQL Server IaaS データベースで構成されたログイン情報と同じである必要があります。

手順

- 1 vRealize Automation 6.2.x 環境から暗号化キーを取得します。
 - a アクティブな Manager サービスをホストする仮想マシンの管理コマンド プロンプトで次のコマンドを実行して暗号化キーを取得します。


```
C:\Program Files
(x86)\VMware\VCAC\Server\ConfigTool\EncryptionKeyTool\DynamicOps.Tools.Encrypti
onKeyTool.exe" key-read -c "C:\Program Files
(x86)\VMware\VCAC\Server\ManagerService.exe.config" -v
```

インストール ディレクトリがデフォルトの場所 (C:\Program Files (x86)\VMware\VCAC) にない場合は、パスを編集して、各自のインストール ディレクトリを指定します。
 - b コマンドを実行して表示されるキーをコピーして保存します。

キーは次のような長い文字列です。

```
NRH+f/BlnCB6yvvaLS3sxespdkcFWAEuyV0g4lfryg=
```
- 2 ターゲット vRealize Automation 7.1 環境で、完全修飾ドメイン名 `https://<va-hostname.domain.name>:5480` を使用して、仮想アプライアンスの管理コンソールを開きます。
- 3 ユーザー名 **root** と、アプライアンスを展開したときに指定したパスワードを使用してログインします。
- 4 [vRA 設定] - [移行] の順に選択します。
- 5 [ソース IaaS データベースの自動クローン作成] チェック ボックスが選択されていることを確認します。
- 6 テナントと ID ストアを移行した方法に応じて、[SSO2 移行を有効にします] チェック ボックスを選択または選択解除します。
- 7 ソース vRA SSO2 アプライアンスの必須情報を入力します。

オプション	説明
ホスト名	ソース vRealize Automation 6.2.x SSO2 ID サーバのホスト名。

- 8 ソース vRA アプライアンスの必須情報を入力します。

オプション	説明
ホスト名	vRealize Automation 6.2.x アプライアンスのホスト名
root ユーザー名	root

オプション	説明
root パスワード	vRealize 6.2 アプライアンスを展開したときに入力した root パスワード。
パスワードの再入力	root パスワードを再入力します。

9 ターゲット vRA アプライアンスの必須情報を入力します

オプション	説明
デフォルトのテナント	たとえば vsphere.local など、インストール ウィザードでシングル サインオンを設定したときに作成したテナント。
管理者ユーザー名	たとえば administrator@vsphere.local など、vRealize 7.1 アプライアンスを展開したときに入力したデフォルトのテナント管理者ユーザー名。
管理者パスワード	vRealize 7.1 アプライアンスを展開したときに入力した管理者パスワード。
パスワードの再入力	管理者パスワードを再入力します。
root ユーザー名	root
root パスワード	たとえば、vRealize 7.1 アプライアンスを展開したときに入力した root パスワード。
パスワードの再入力	root パスワードを再入力します。

10 ソース vRA IaaS データベース サーバの必須情報を入力します。

オプション	説明
データベース ホスト名	vRealize Automation 6.2.x IaaS Microsoft SQL データベース ホストの名前。
データベース名	vRealize Automation 6.2.x アプライアンスを展開したときに入力した名前。デフォルトの名前は、vCAC です。
暗号化キー	ソース vRealize Automation 6.2.x 導入環境からの暗号化キーの文字列。
データベースのセキュリティ	SQL Server の認証メカニズム。[Windows 認証] または [SQL 認証] を選択します。[SQL 認証] を選択する場合は、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。vRealize Automation 6.2.x データベースと 7.1 データベースが別々のドメインに配置されている場合、Windows 認証は失敗します。

11 ターゲット vRA IaaS データベース サーバの必須情報を入力します。

オプション	説明
データベース ホスト名	vRealize Automation 7.1 IaaS Microsoft SQL データベース ホストの名前。
新規データベース名	移行先の新規データベースの名前。
データベースの作成	デフォルトの選択を受け入れます。
パスフレーズ	移行した Microsoft SQL データベースに保存されている機密コンテンツを再暗号化するための新しいパスフレーズ。パスフレーズとは、暗号化キーを生成するために使用される一連の語のことです。これにより、エンドポイント認証情報などのデータベース内のデータを保護することができます。このパスフレーズは、新しいコンポーネントをインストールするたびに使用します。
データベースのセキュリティ	SQL Server の認証メカニズム。[Windows 認証] または [SQL 認証] を選択します。[SQL 認証] を選択する場合は、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。vRealize Automation 6.2.x データベースと 7.1 データベースが別々のドメインに配置されている場合、Windows 認証は失敗します。

12 [移行] をクリックします。

[移行のステータス] には、移行の進行状況が表示されます。また、移行が完了するとメッセージが表示されます。

移行に関するその他の詳細は次のログ ファイルに含まれています。これらのログ ファイルを追跡すると、移行の進行状況を確認できます。

- vRealize Automation 6.2.x 仮想アプライアンス : /var/log/vcac/migration-package.log
- vRealize Automation 7.1 仮想アプライアンス : /var/log/vcac/migrate.log

- laas ノード : C:\Program Files (x86)\VMware\VCAC\InstallLogs-<YYYYMMDDHHMMSS>\Migrate.log
laaS ノードのインストールディレクトリが、デフォルトの場所以外にある場合があります。
- 13 移行が終了したら、vRealize Automation 7.1 ライセンス キーを送信します。
 - a 管理コンソールで、[ライセンス] をクリックします。
 - b [新規ライセンス キー] テキスト ボックスに vRealize Automation 7.1 ライセンス キーを入力します。
 - c [送信キー] をクリックします。
- 14 クラスタ環境に移行する場合は、それぞれのセカンダリ ノード上の管理コンソールにアクセスし、各セカンダリ ノードをマスター ノードに結合します。
 - a [vRA 設定] - [クラスタ] の順に選択します。
 - b [クラスタに参加] をクリックします。
- 15 クラスタ環境に移行する場合は、ロード バランサの各セカンダリ ノードを設定します。

次に進む前に

[\[vRealize Automation の移行環境の検証 \(P. 15\)\]](#)

内部の vRealize Orchestrator を備えた環境向けの移行後タスク

ターゲット環境に内部の VMware vRealize™ Orchestrator™ が含まれている場合は、移行後に次のタスクを完了してください。

次の手順を実行して、内部の vRealize Orchestrator 構成を更新します。

開始する前に

- vRealize Automation 6.2.x 環境から vRealize Automation 7.1 環境への移行を正常に完了します。
- vRealize Orchestrator コントロール センターにログインします。[vRealize Orchestrator 構成インターフェイスにログインする](#)を参照してください。

手順

- 1 vRealize Orchestrator コントロール センターで [ホーム] - [プラグインを管理] を選択します。
- 2 [プラグインを管理] ページで、ライブラリ、vCAC、vCACCAFE のダウンロード アイコンをクリックして、これらのプラグイン DAR ファイルをダウンロードします。
- 3 root ユーザーとして vRealize Automation 7.1 仮想アプライアンスにログインします。
- 4 `/usr/lib/vco/app-server/plugins` に移動します。
- 5 ライブラリ (`o11nplugin-library.dar`)、vCAC (`o11nplugin-vcac.dar`)、vCACCAFE (`o11nplugin-vcaccaff.dar`) のプラグインが含まれる DAR ファイルを削除します。
- 6 `/var/lib/vco/app-server/conf/plugins` に移動します。
- 7 `_VSOPuginInstallationVersion.xml` ファイルを編集して、ライブラリ、vCAC、vCACCAFE のプラグインのエントリを削除します。
- 8 vRealize Orchestrator コントロール センターで [ホーム] - [起動オプション] を選択します。
- 9 [再起動] をクリックします。
プラグインが vRealize Orchestrator から削除されます。
- 10 vRealize Orchestrator クライアントを開き、これにログインします。
- 11 左上隅のドロップダウン メニューから [管理] を選択します。

- 12 左ペインで [パッケージ] アイコンをクリックします。
- 13 com.vmware.library、com.cmware.library.vcac、com.vmware.library.vcaccafe のパッケージを 1 つずつ削除します。
 - a 左ペインでパッケージを右クリックして、[コンテンツのあるエレメントを削除] を選択します。
 - b [すべて削除] をクリックします。
- 14 vRealize Orchestrator クライアントを閉じます。
- 15 vRealize Orchestrator コントロール センターで [ホーム] - [プラグインを管理] を選択します。
- 16 先ほどダウンロードした DAR ファイルから、ライブラリ、vCAC、vCACCAFE のプラグインを 1 つずつインストールします。
 - a [参照] をクリックします。
 - b DAR ファイルをダウンロードしたフォルダに移動します。
 - c DAR ファイルを選択して、[開く] をクリックします。
 - d [インストール] をクリックします。
- 17 vRealize Orchestrator コントロール センターで [ホーム] - [起動オプション] を選択します。
- 18 [再起動] をクリックします。
- 19 vRealize Orchestrator クライアントを開き、これにログインします。
- 20 左上隅のドロップダウン メニューから [実行] を選択します。
- 21 左ペインで [ワークフロー] アイコンをクリックします。
- 22 [ライブラリ] - [vRealize Automation] - [構成] の順に選択します。
- 23 [vRA ホストの IaaS ホストを追加する] を選択します。
- 24 右ペインで [ワークフローの開始] アイコンをクリックします。
要求されるパラメータを入力して、IaaS ホストを vRealize Orchestrator インベントリに追加します。
- 25 左ペインで [インベントリ] アイコンをクリックします。
- 26 [vRealize Automation Infrastructure] を選択します。
- 27 右ペインで [再読み込み] アイコンをクリックします。
- 28 IaaS ホストがリストに追加されたことを確認します。

vRealize Automation の移行環境の検証

ターゲット VMware vRealize™ Automation 7.1 環境にすべてのデータが正常に移行されたかどうかを確認できます。

開始する前に

vRealize Automation 6.2.x から 7.1 への移行が完了していること。

手順

- 1 vRealize Automation 7.1 環境で、vRealize Automation 6.2.x 認証情報を使用して vRealize Automation コンソールに**管理者**としてログインします。
- 2 [インフラストラクチャ] - [管理対象マシン] の順に選択し、すべての管理対象仮想マシンが存在することを確認します。
- 3 [コンピュータリソース] をクリックします。次に、各エンドポイントを選択して [データ収集] > [今すぐ申請] > [更新] の順にクリックし、エンドポイントが機能していることを確認します。
- 4 [設計] をクリックし、[ブループリント] ページで各ブループリントの要素を選択して検証します。

- 5 [XaaS] をクリックし、[カスタム リソース]、[リソース マッピング]、[XaaS ブループリント]、および [リソース アクション] の内容を確認します。
- 6 [管理] - [カタログ管理] を選択し、[サービス]、[カタログ アイテム]、[アクション]、[資格] の内容を確認します。
- 7 [アイテム] - [デプロイ] を選択し、プロビジョニングされた仮想マシンの詳細を確認します。
- 8 [展開] ページで、プロビジョニングされたパワーオフの仮想マシンを選択し、[アクション] - [パワーオン] を選択します。次に、[送信] > [OK] の順にクリックします。マシンが正常にパワーオンになっていることを確認します。
- 9 [カタログ] をクリックし、新しいカタログ アイテムを申請します。
- 10 [全般] タブで、申請情報を入力します。
- 11 マシンのアイコンをクリックし、すべてのデフォルト設定を受け入れて [送信] > [OK] の順にクリックします。申請が正常に完了したことを確認します。

移行に関するトラブルシューティング

移行に関するトラブルシューティングのトピックでは、vRealize Automation の移行時に問題が発生した場合の解決策について説明します。

PostgreSQL バージョンが原因のエラー

更新された PostgreSQL データベースが含まれているソースの vRealize Automation 6.2.x 環境では、管理者アクセスがブロックされます。

問題

アップグレードされた PostgreSQL データベースが vRealize Automation 6.2.x で使用されている場合、管理者は vRealize Automation からこのデータベースへのアクセスを提供するエントリを **pg_hba.conf** ファイルに追加する必要があります。

解決方法

- 1 **pg_hba.conf** ファイルを開きます。
- 2 次のエントリを追加して、このデータベースへのアクセスを付与します。

```
host all <vcac-database-user> <vra-va-ip> <trust-method>
```


インデックス

い

移行

laaS データベース バックアップを使用 9

移行の検証 15

概要 7

自動 laaS データベース クローン作成 12

前提条件 7

移行後タスク、vRealize Orchestrator 構成の更新 14

こ

更新情報 5

て

テナントと ID ストアの移行

Linux 8

Windows 9

と

トラブルシューティング、外部の PostgreSQL データベース 17

